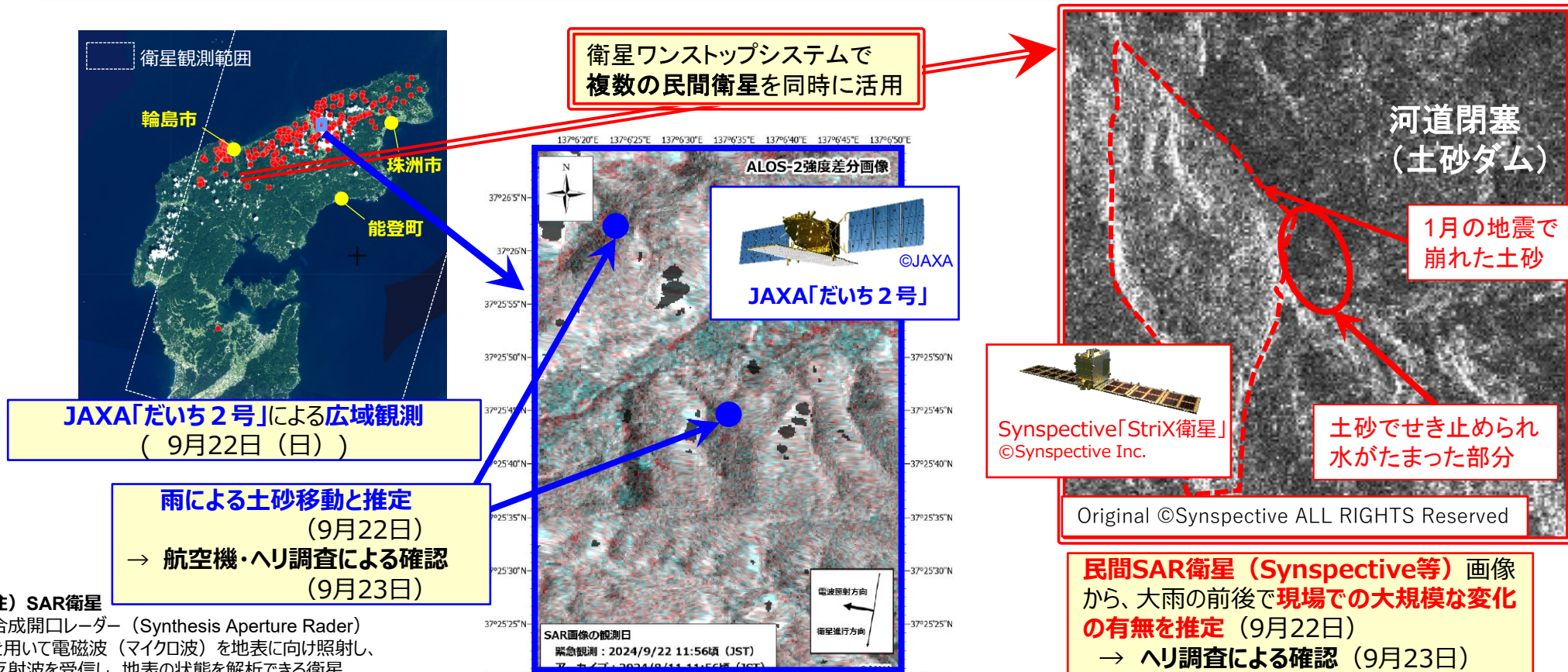


「官民衛星のコンビネーション利用」の例

【だいち2号・民間小型SAR衛星のコンビネーションによる災害対応】

- 令和6年9月能登半島豪雨の際、JAXA「だいち2号」の広範囲観測による豪雨前後の比較から、斜面崩壊等の可能性がある箇所を抽出し、広大な能登半島で防災ヘリ調査箇所を絞り込み、迅速な状況把握に役立てた。
- あわせて「民間SAR衛星」の高分解能観測により河道閉塞（土砂ダム）（1月の能登半島地震で発生）が豪雨後に大規模に変化しているかの状況把握を行い、下流への土砂災害リスク等の把握に役立てた。
- 民間衛星群を効果的に運用するため、複数の衛星に一度に撮像指令を出せる「日本版災害チャータ」・「衛星ワンストップシステム」などのタスキングシステムが活用された。

注）「日本版災害チャータ」・「衛星ワンストップシステム」 内閣府・SIP・BRIDGE等による成果



注) SAR衛星
合成開口レーダー (Synthesis Aperture Rader)
を用いて電磁波 (マイクロ波) を地表に向け照射し、
反射波を受信し、地表の状態を解析できる衛星。